

論文

児童の英語学習機会充実等による教育効果の検証

—都内公立小学校第6学年意識調査の分析を通して—

荒川区立尾久第六小学校 高橋 美香
帝京大学教職センター・教育学部 松波 紀幸

<要 旨>

筆者らは都内公立A小学校において、児童の英語学習機会充実等が児童らにどのような教育効果をもたらすかその評価を行うこととした。具体的には、2017年度より3年間、英語学習における標準時数を上回る授業機会を児童らに設定するとともに、全学年分の単元開発を行い授業実践に取り組んだ。その効果について意識調査により分析を行った。児童らの回答について、外国人から話しかけられた際の対応として望ましい対応群と望ましくない対応群に分けて分析したところ、指導改善における留意点が明らかとなった。また、授業においてよく取り入れられるゲームだけでは児童が望ましい姿に変容しないことが示唆された。今後は、今回得られた分析結果をもとに、指導の改善を行うとともに、引き続き児童らの意識について追跡調査するなどして、さらなる教育実践の改善に努めることが課題である。

<キーワード>

英語学習 外国語 外国語活動 短時間学習 授業時数 教育課程

1. はじめに

我が国の小学校における外国語教育は、2008年の中央教育審議会答申^{〔1〕}において外国語活動の新設が答申されたことにより本格的に開始された。ここでは、高学年児童に対し、年間35単位時間の授業が設定された。また、2016年の中央教育審議会答申^{〔2〕}では、中学年「外国語活動」が年間35単位時間、高学年「外国語」が年間70時間と示され、2021年度より全面実施となった。こうした小学校における外国語教育が円滑に実施されるに至るには、国や都道府県、各自治体における研究指定校を中心とした、度重なる実践研究によるものが大きいと考えるⁱ。

本稿では、早くから構造改革特区にも指定された自治体にあるA小学校における実践に着目し述べていくこととする。

2003年度より構造改革特区、引き続き2019年度まで教育課程特例校に指定された自治体にあるA小学校では、小学校第1学年から週1単位時間の「英語」を実施している。また、2015年度より3ヵ年、「文部科学省外国語教育強化地域拠点校」ⁱⁱの指定を受け、小学校における教育課程の改善や、中学校・高等学校との円滑な接続および英語教育の目標・内容の指導及び評価の改善について研究し、CAN-DOリストの作成【付録1】、年間指導計画の作成【付録2】、授業の改善【付録3】、教材や言語環境の整備等

に関わる成果を2018年1月にA小学校を会場として発表した。

A小学校においては、前述の拠点校事業の一環として、これまで実施してきた小学校第1学年から第4学年までの週1単位時間以上の英語学習に加え、2017年度より小学校第5学年、第6学年（以下、高学年）において、週2単位時間の英語学習の機会を設ける等した。この3年間における英語学習は、拠点校事業における成果である年間指導計画等を、さらに校内において練り上げて活用した。

そこで、本稿では次のとおり、研究の目的を設定し、その効果を検証することとした。

2. 目的

これまで取り組んできたA小学校の教育課程に加え、平成29年告示学習指導要領全面実施に向けて2017年度より3年間、高学年に先行的に週1単位時間の新たな授業時数を設ける等とともに、単元開発及び授業実践を実施した。本稿では、児童らの意識調査をもとに、その効果について明らかにすることを目的とする。

3. 方法

3.1 A小学校における指導の具体について

(1) 実践研究の主題について

A小学校では、「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～児童が『話したい』『聞きたい』と思える授業づくり」を主題として全学年分の単元開発に取り組んだ。特に小学校第1学年、第2学年（以下、低学年）については、今までのA小学校独自の実践をもとに、平成29年告示学習指導要領及び小学校第3学年、第4学年（以下、中学年）ならびに高学年用の文部科学省新教材「Let's Try!」「We Can!」ⁱⁱⁱとの系統性等を視野に入れながら、再構築した。その際、次の3点に特に留意しながら、単元開発及び授業実践を行った。

- ①コミュニケーションにつなげるinputやoutput
- ②単元メインアクティビティの工夫
- ③必然性^{iv}をもたせた学習活動

(2) 指導時数について

A小学校では、教育課程の改善の一環として、表1のとおり平成29年告示学習指導要領^[3]全面実施に向けて、平成20年告示学習指導要領^[4]に示される標準時数に加え、英語学習の時間をより多く設定することで英語に触れる機会を増やした。なお、表中の数字は45分を1単位とする単位時間を表す。

表1 A小学校における各学年の週当たりの英語に関する授業時数

	2003～ 2016年度	2017～ 2019年度	標準時数 参考※1
低学年	1	1	0
中学年	1	1と1/3	0
高学年	1	2 ※2	1

※1 小学校における教育課程は、2017年度については平成20年告示学習指導要領による。また、2018、2019年度については、移行措置期間であるため、これまでの標準時数にそれぞれ15単位時間ずつ加え、中学年15単位時間、高学年50単位時間の授業を標準としている^[5]。

※2 うち1単位時間は、児童が英語に触れる機会を増やすことを目的に、短時間学習3回を実施した。

(3) 指導体制について

学級担任をT1とし、外国人指導助手（Native English Assistant）（以下、「NEA」という）もしくは英語教育アドバイザー（Adviser）（以下、「AD」という）がT2としてサポートする（具体的な役割と連携方法については【付録4】参照）。NEAとADは各々全授業時数の約6割をサポートする。なお、短時間授業については、

学級担任が一人で指導を行う。

(4) 使用教材等について

A小学校所管自治体における「小学校英語科指導指針」に基づく学校独自のLESSンプラン、「Let's Try!」、「We Can!」、(※自治体名)モジュールDVD(2018年度～)を使用した。

3.2 意識調査について

(1) 調査日及び回答数等について

①調査日 2020年7月22日(水)

②回答数

318名(第1学年63名、第2学年58名、第3学年55名、第4学年54名、第5学年35名、第6学年53名)

③在籍数

327名(第1学年64名、第2学年59名、第3学年55名、第4学年54名、第5学年38名、第6学年57名)

④回答率 97.2%

(2) 調査内容について

調査は質問紙法で実施し、最大で44の設問から構成されている。低学年は、大設問(1)～(6)の6設問、中学年は、大設問(1)～(8)の19設問、高学年は大設問(1)～(10)の44設問(後述表3参照)であった。

3.3 分析について

A小学校においては、2019年度、2020年度の2カ年にわたる児童に対する意識調査データを保有している。しかしデータを識別番号等により、個々人に紐づけていないため、経年比較を行うことは出来なかった。そこで、最新データである2020年度1学期のデータが評価時点における児童の姿を一番反映していると考え、このデータを用い分析した。

データを概観するために、まずは各設問に対する回答状況を確認した。次に、調査項目の中で、A小学校における育てたい児童像と関係が

深い、「(6) もし外国の人が話しかけてきたらあなたはもうどう思いますか。」を分析の軸に据えることとした。A小学校では、「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を目指しており、ここでは「英語」を取り扱う中で、こうした児童の育成を目指している。児童らが将来的には英語を通じて外国の人々と主体的にコミュニケーションを図ることを願い、本分析を試みた。これにより、A小学校のこれまでの実践に対する一側面からの評価が行えると考えた。

4. 結果

4.1 単純集計から

以下斜体はA小学校が行った調査項目の表現を筆者らが短く表現しまとめたものである。また、番号等については、意識調査で用いた番号をそのまま用いており、本稿で用いる番号等とはその意味合いが異なる。よって、斜体表記で区別した。

- (1) 87.7%が英語授業好き
- (2) 89.0%が積極的に授業に参加
- (3) 86.5%が英語好き
- (4) 94.7%が英語を使えるようになりたい
- (5) 95.0%が英語学習が大切と考える
- (6) 外国人が話しかけてきたら、
46.2%が英語で回答
27.7%がジェスチャーで回答
10.7%が母語で回答
2.5%が立ち去る
12.5%が不明
0.3%が無回答
- (7) 英語の授業について【中高学年対象】
 - ア 92.4%が歌うことが楽しい
 - イ 97.0%がゲームが楽しい
 - ウ 88.3%が発音練習楽しい
 - エ 84.3%が他者の話を聴くことが楽しい
 - オ 78.2%が絵本の読み聞かせが楽しい

- カ 87.8%がALTとの会話が楽しい
 キ 84.3%が担任との会話が楽しい
 ク 88.3%が外国のことを学ぶことが楽しい
 ケ 84.3%が言語の違いを知ることが楽しい
 コ 87.8%が文字を読むのが楽しい
 サ 86.3%が文字を書くのが楽しい
- (8) あなたは英語の授業のないようを、理解していると思うか。【中高学年対象】
 授業を理解していない児童は、2名(0.6%)
- (9) 英語の授業で、やりたいと思うことはどのようなことか。【高学年対象】
- ア 78.4%が歌いたい
 イ 88.6%がゲームしたい
 ウ 81.6%が発音練習したい
 エ 79.5%が友達と会話したい
 オ 75.0%がALTと会話したい
 カ 77.3%が担任との会話したい
 キ 84.1%が外国のことについて学びたい
 ク 85.2%が言語の違いを知りたい
 ケ 75.0%が自分の意見を言いたい
 コ 86.4%が他者の意見を聴きたい
 サ 70.5%が絵本の読み聞かせを聴きたい
 シ 85.2%が文字を読みたい
 ス 85.2%が文字を書きたい
- (10) これから英語を使ってやってみたいことは何か。【高学年対象】
- ア 83.0%が歌いたい
 イ 75.0%が外国人と話したい
 ウ 75.0%が外国人と友達になりたい
 エ 63.6%が字幕なしで映画みたい
 オ 71.6%が英語の本を読みたい
 カ 60.2%がネット交流したい
 キ 50.0%が留学したい
 ク 59.1%が英語で仕事したい
 ケ 84.1%が海外旅行行きたい
 コ 65.9%が日本文化を紹介したい

4.2 クロス集計から

筆者らが「(6) もし外国の人が話しかけてきたら あなたはどうすると思いますか。」とその他の項目について、クロス集計を実施した。分析には χ^2 乗検定を用いたが、「(3) 英語が好きですか」との分析以外は、いずれも期待度数が5未満である割合が、20%未満であるという条件をクリアしなかった。中山(2006)^[6]によれば、実際どのくらいの期待度数が必要かについては、様々であるが、慎重に分析するのであれば、次の2点が条件に挙げられている。

- ・すべてのセルの期待度数が1以上であること
- ・期待度数5未満のセルが、全体の20%未満であること

よって、この条件に合致しない場合には、「期待度数の小さいセルを含む行あるいは列を分析から除外するか、もし意味的に問題なければ、他の行・列に併合して、期待度数の小さなセルを減らします。」とあることから、「(6) もし外国の人が話しかけてきたら あなたはどうすると思いますか。」における選択肢を以下表2のように丸めることとした。この丸め方については、様々な考え方があがるが、筆者らは話しかけられた際に、英語もしくはそれを補うジェスチャーで回答することが望ましい姿と考え、以下のように丸めることとした。

表2 選択肢の丸め方

変更前	変更後
英語で答える	望ましい姿群
身振り手振りなどで伝えようとする	
日本語で答える	望ましくない姿群
黙って逃げる	
分からない	

また、その分析結果は表3にまとめた。分析は χ^2 乗検定を用いているが、「期待度数5未満のセルが、全体の20%未満」の条件を満たさない場合には、イエーツの補正(Yatesの修正)の分析結果を採用している。

表3 設問 (6) と他の設問の関係性に関する分析

	全校児童または 中高のみ分析		低学年のみ 分析		中学年のみ 分析		高学年のみ 分析	
	χ^2 二乗 検定	イエーツの 補正	χ^2 二乗 検定	イエーツの 補正	χ^2 二乗 検定	イエーツの 補正	χ^2 二乗 検定	イエーツの 補正
(1) 英語の授業が好きですか	**			n.s.		n.s.		**
(2) 英語の授業にすすんで参加していますか。	**			n.s.		n.s.		**
(3) 英語が好きですか。	**			n.s.	**			**
(4) 英語がつかえるようになりたいですか。		**		n.s.		n.s.		*
(5) 英語の勉強が大切だと思いますか。		*		n.s.		n.s.		n.s.
(7) 英語の授業について (中高学年のみ)								
(7) ア英語の歌を歌うこと		*				n.s.		**
(7) イ英語のゲームをすること		n.s.				n.s.		n.s.
(7) ウ英語の発音を練習すること	**					**		*
(7) エ 【L】 友達や先生が英語で話しているのを聞くこと	**				**			**
(7) オ 【L】 英語の絵本を読んでもらうのを聞くこと	*					n.s.	**	
(7) カ 【S】 英語で外国人の先生と会話をすること	**					n.s.	**	
(7) キ 【S】 英語で先生と会話をすること	**					**		**
(7) ク外国のことについて学ぶこと	**					n.s.		*
(7) ケ日本語と英語のちがいをすること	**					n.s.		n.s.
(7) コ 【R】 英語の文字やたん語を読むこと	**					**		**
(7) サ 【W】 英語の文字やたん語を書くこと	**					n.s.		*
(8) あなたは英語の授業のないようを、理解していると思いますか。		**				*		n.s.
(9) 英語の授業でやりたいこと (高学年のみ)								
(9) ア英語の歌を歌うこと								**
(9) イ英語のゲームをすること								*
(9) ウ英語の発音を練習すること								*
(9) エ 【S】 英語で友達と会話すること								**
(9) オ 【S】 英語で外国人の先生と会話をする								**
(9) カ 【S】 英語で先生と会話をする								**
(9) キ外国のことについて学ぶこと								n.s.
(9) ク日本語と英語のちがいをすること								*
(9) ケ 【S】 英語で自分のことや意見を言うこと								**
(9) コ 【L】 英語で友達や先生など、人の意見を聞くこと								*
(9) サ 【L】 英語の絵本を読んでもらうのを聞くこと							**	
(9) シ 【R】 英語の文字や単語を読むこと								*
(9) ス 【W】 英語の文字や単語を書くこと								*
(10) 今後英語を使ってやってみたいことは何か。								
(10) ア英語の歌をきいたり歌ったりすること								**
(10) イ 【S】 外国の人とはなすこと								**
(10) ウ外国の人と友達になること								**
(10) エ 【L】 外国の映画を字幕なしで観ること								**
(10) オ 【R】 英語で書かれた本を読むこと								**
(10) カ英語を使って外国の人とインターネットで交流すること							*	
(10) キ外国の学校で学ぶこと							**	
(10) ク英語を使う仕事をする							n.s.	
(10) ケ海外旅行に行くこと								**
(10) コ英語で日本の文化を紹介すること							**	

※ 設問 (6) 「もし外国の人が話しかけてきたら あなたはどうすると思いますか。」

※ n.s. 有意差無を表す

※ 表中の「*」はそれぞれ、 $p < .10$ * $p < .05$ ** を表す

5. 考察

5.1 単純集計から

単純集計からは、例えば、「(1) 87.7%が英語授業好き」「(3) 86.5%が英語好き」と回答していた。ここで、授業と英語（教科）そのものを好きと回答している児童に差が見られた。よって、教科は好きでなくとも授業が好きと回答をする児童はどのような理由によるものなのか、学級担任等がインタビューすることで、授業の改善点を見出すことも可能ではないだろうか。

また、「(9) 英語の授業で、やりたいと思うことはどのようなことか。【高学年対象】」において、「エ 79.5%が友達と会話したい」>「カ 77.3%が担任との会話したい」>「オ 75.0%がALTと会話したい」と担任やALTを抜いて友達が一番話したい相手と回答していた。これは、高学年になると、友達とのコミュニケーションに意欲をもつことに留意しつつ、授業づくりを行っていく大切さを示唆していると考えられ

る。なお、本稿における評価では、さらに詳細な追跡調査を実施していないため、今後の課題としたい。

5.2 「設問 (6)」との関係性について

外国人から話しかけられた際の対応として「望ましい姿群」と「望ましくない姿群」に大別し（図1）、学年毎に有意差の有無を分析したが、有意差は見られなかった（n.s.）。

そこで、望ましい姿をより詳細に分析するため、「望ましい姿群」を「英語で答える」と「身振り手振りなどで伝える」に分割し（図2）、 χ^2 二乗検定により分析した。その結果、「 χ^2 (10) = 59.400, $p < .01$, ES: $\omega = 0.306$, $1 - \beta = 0.9824^v$ 」であり、有意な差が見られた。そこで、さらに残差分析によりどこに差が見られるのか分析したところ、6年生における英語で回答する度数が期待度数よりも少ないこと、一方でジェスチャーを用いて回答する度数が期待度数よりも多いことが分かった。

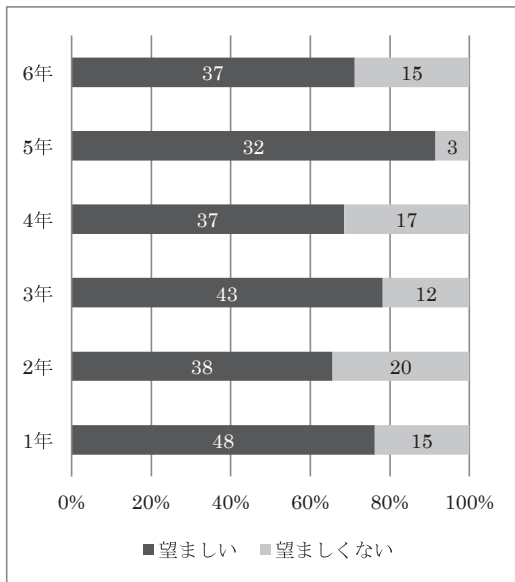


図1 外国人から話しかけられた際の姿2群
(学年別)

※ 図中の数字は、人数を表す。

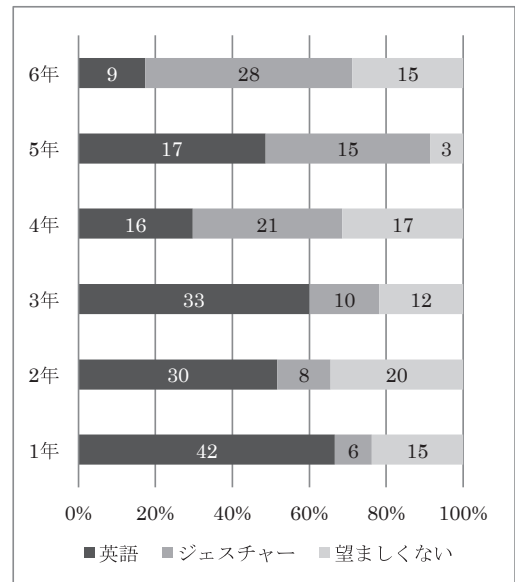


図2 外国人から話しかけられた際の姿3群
(学年別)

※ 図中の数字は、人数を表す。

図2を参照するに、英語で回答したいとする割合は第1学年が一番高く、第6学年が一番低い。これは、学習内容が高度になることで、英語の難しさを感じていることが原因と推察した。一方で、ジェスチャーで回答する割合は、第4学年以上で大きくなっており、英語で回答できなくとも、ジェスチャーで回答することが有効であることを児童らが学習により体感したことが原因と考えた。本校では、「児童が主体的にコミュニケーションを取ろうとするにはどのような手立てが有効か」という視点のもと、コミュニケーションにつながるinputとoutputや、単元メインアクティビティの工夫に取り組んでおり、その成果がここに表れていると考えることもできる。

5.3 「設問 (6)」との関係性から考察する指導改善における留意点

ここで、分析結果から、指導改善における留意点を考察したい。

まず低学年においては、質問項目数が少ないこともあり、授業が好きであることや、進んで参加していることと望ましい姿勢に関係性は見られない。

しかし、中学年では、「英語が好き」であることが望ましい姿勢に関係があることから、当然の事ではあるが、児童が「英語が好き」になるよう十分留意しながら指導を工夫することが求められる。また、英語の授業において「(7) ウ 英語の発音を練習すること」や「(7) エ 友達や先生が英語で話しているのを聞くこと」、「(7) キ 英語で先生と会話をすること」「(7) コ 英語の文字やたん語を読むこと」「(8) あなたは英語の授業の内容を、理解していると思いますか。」に関係がある。よって、授業実践に当たっては、これら観点に注力することも考えられる。

なお、高学年になると「英語好き」だけでなく「授業そのものが好き」とも関係してくることから、授業内容そのものが魅力的である必要

がある。また、「(2) 英語の授業にすすんで参加していますか。」とも関係しており、高学年児童を授業に積極的に参加させるために、単なる繰り返しの活動ではなく、「必然性が生まれる学習内容」を設定し、自分や友達の情報を知り合う事ができる「メインアクティビティを工夫」した授業づくりが重要であろう。

一方で、「(7) イ 英語のゲームをすること」は低中高学年いずれにおいても「望ましい姿」とは関係が見られない。よって、児童の気持ちを解きほぐすことや授業の導入などにゲームを取り入れることは妨げないものの、それだけでは児童が望ましい姿に変容しないことが示唆された。その目的や内容を十分吟味しながら、他の言語活動と組み合わせて、ゲームを活用していく必要がある。

また、平成29年告示学習指導要領の2020年度全面実施に伴い、文字を書く指導も始まった。これに関連して、本校の中学年では「(7) コ 英語の文字やたん語を読むこと」との関係性のみであったものが、高学年ではこれに加え「(7) サ 英語の文字やたん語を書くこと」とも関係性が見られた。よって、高学年における書きの指導は、望ましい姿を育成するために必要な事項と言えるのではないだろうか。また、「(10) ク 英語を使う仕事をする事」とは関係が見られないものの、「(10) キ 外国の学校で学ぶこと」や「(10) ケ 海外旅行に行くこと」とは関係があり、望ましい姿を育成するために、遠い将来でなく、近い将来の海外旅行や学生留学の可能性などを児童に想起させることも考えられる。

今後は、今回得られた分析結果をもとに、指導の重点化を図るとともに、引き続き児童らの意識について追跡調査や経年変化をみるなどして、さらなる教育実践の改善に努めることが課題である。

引用文献

- [1] 中央教育審議会, “幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）,” 17 1 2008. [オンライン]. Available: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/05/12/1216828_1.pdf. [アクセス日: 27 1 2021].
- [2] 中央教育審議会, “幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）,” 21 12 2016. [オンライン]. Available: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm. [アクセス日: 27 1 2021].
- [3] 文部科学省, “小学校学習指導要領（平成29年告示）,” 3 2017. [オンライン]. Available: https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf. [アクセス日: 27 1 2021].
- [4] 文部科学省, “小学校学習指導要領（平成20年告示）,” 3 2008. [オンライン]. Available: https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/11/29/syo.pdf. [アクセス日: 27 1 2021].
- [5] 文部科学省, “学習指導要領の改訂に伴う移行措置の概要（中学校保健体育について修正）,” 16 1 2019. [オンライン]. Available: https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2019/01/16/1387780_005_003_1.pdf. [アクセス日: 27 1 2021].
- [6] 中山勘次郎, “ χ^2 検定の制約,” 2009. [オンライン]. Available: <https://www.juen.ac.jp/psych/nakayama/chi2.html>. [アクセス日: 28 8 2020].

【付録1】CAN-DO リスト（A小学校版）（2017年10月24日改訂）

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
聞くこと	・ ゆっくりはっきりと話してもらい、視覚的な援助があれば、指導者が話す英語を限定的に聞き取ることができる。	・ ゆっくりはっきりと話してもらい、視覚的な援助があれば、指導者が話す英語をおおよそ聞き取ることができる。	・ ゆっくりはっきりと話されれば、自分に関することや身の回りの物事に関する簡単な英語をおおよそ聞き取ることができる。	・ ゆっくりはっきりと話されれば、自分に関することや身の回りの物事に関する簡単な英語を聞き取ることができる。	・ ゆっくりはっきりと話されれば、身近な話題の会話を既習表現やジェスチャー、絵カードなどを手がかりにして、必要な情報を聞き取ることができる。	
読むこと	・ A～Zまで順番に並んでいるアルファベットの大きな文字を名前読みすることができる。	・ 大文字の名前読みを聞いて、選ぶことができる。 ・ a～zまで順番に並んでいるアルファベットの小さな文字を名前読みすることができる。	・ 小文字の名前読みを聞いて、選ぶことができる。 ・ アルファベットの音と文字の関係があることに気付くことができる。 ・ 慣れ親しんだ簡単な単語の発音を聞き、選ぶことができる。	・ 音素を聞き、アルファベットを選ぶことができる。 ・ 簡単な英単語を音声化することができる。 ・ 簡単な英語で書かれた文章を視覚的な情報や既習表現などから、ある程度の意味を理解することができる。	・ 音素を聞き、3～5文字程度の単語を選ぶことができる。 ・ 簡単な英単語を音声化することができる。また、複数の文章をゆっくりと音声化することができる。 ・ 簡単な英語で書かれた文章を視覚的な情報や既習表現などから、おおよその意味を理解することができる。	

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
話すこと (やりとり)	・ 簡単な英単語や英語表現を使い、視覚的な援助をもとに、限定的に話すことができる。	・ 簡単な英単語や英語表現を使い、視覚的な援助をもとに、質問したり、答えたりすることができる。	・ 指導者や友達の英語を聞き、限られた語彙で反応することができる。 ・ ゆっくりはつきりと話されれば、自分に関することや身の回りの物事に関する簡単な英語を質問したり、答えたりすることができる。	・ 指導者や友達の英語を聞き、簡単な英語で反応することができる。 ・ ゆっくりはつきりと話されれば、自分に関することや身の回りの物事に関する簡単な英語を質問したり、答えたりすることができる。	・ 指導者や友達の英語を聞き、既習表現をつかい、尋ねたり、答えたりすることができる。 ・ ゆっくりはつきりと話されれば、自分に関することや身の回りの物事に関する既習表現を使い、質問したり、答えたりして、二往復以上の短い会話を行うことができる。	・ 指導者や友達の英語を聞き、既習表現をつかい、尋ねたり、会話をつないでいったりする。 ・ ゆっくりはつきりと話されれば、自分に関することや身近な話題について、既習表現を使い、複数質問したり、答えたりして、3 往復以上の簡単な会話を行うことができる。
話すこと (発表)	・ 自分に関係することや限定的な身の回りの物事について、話すことができる。		・ 前もって話すことを用意した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、実物や絵を見せながら話すことができる。		・ 前もって話すことを用意した上で、簡単な英語表現やジェスチャーを使い、発表することができる。	
書くこと			・ 手本を見ながら、4 線にアルファベットの大文字を活字体で書くことができる。	・ 手本を見ながら 4 線にアルファベットの小文字を活字体で書くことができる。 ・ ごく身近な事柄について、慣れ親しんだ単語をなぞったり、書き写したりすることができる。	・ 音と文字の関係を意識したり、音声で十分に慣れ親しんだ 3～5 文字程度の英単語を聞いたりして、写し書きをすることができる。 ・ ごく身近な事柄について、慣れ親しんだ単語や既習表現をなぞり書きすることができる。	・ 音と文字の関係を意識したり、音声で十分に慣れ親しんだ 3～5 文字程度の英単語を聞いたりして、書くことができる。 ・ ごく身近な事柄について、慣れ親しんだ単語や既習表現を書き写したり、書いたりすることができる。

【付録2】年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年 (モジュール) 15分×35回	あいさつをしよう (挨拶・名前) ②	数を英語で数えてみよう (1～12) ③	色を英語で言ってみよう (色) ④	体を英語で言ってみよう (体の部分) ③	今日の天気は何ですか (天気) ④	ハロウィンを楽しもう (行事) ③	形を英語で言ってみよう (形) ④	クリスマスを楽しもう (行事) ③	夢の動物園を作ろう！ (動物) ④	私の好きなもの (野菜、色、動物など) ⑤	
2年	あいさつをしよう (自己紹介) ②	今日は何曜日？ (曜日) ④	何月生まれ？ (月の名前) ④	体を英語で言ってみよう (体の部分・左利き) ③	数を英語で数えてみよう (1～20) ④	ハロウィンを楽しもう (行事) ③	オリジナルの動物を作ろう (文房具) ④	クリスマスを楽しもう (行事) ③	大は英語でなんて書くの？ (動物・鳴き声) ④	好きなもの、好きではないもの (食べ物、動物、色) ④	
3年	あいさつをしよう (自己紹介・気分) ③	今、何時？ (1～60) ④	誕生日はいつですか？ (月、年数) ⑥	好きな遊びを伝えよう (天気・遊び) ④	好きな遊びを伝えよう (天気・遊び) ④	私の好きな教科 (教科) ③	どこへ行きますか (場所・教室) ③	これなあに？ (動物・果物・文房具・色) ④	できます！ (スポーツ、楽器、料理など) ④	好きなものは何ですか？ (食べ物、動物、色、教科、スポーツ) ④	
短期学習 (モジュール) 15分×35回	アルファベットとかなよし (大文字) (形を認識する⇒名前読み、聞いて文字を選ぶ)										
4年	あいさつをしよう (自己紹介) ②	私の一日 (日曜) ⑤	誕生日に何がほしいですか？ ⑥	好きな遊びを伝えよう (天気・遊び) ④	お気に入りの場所を紹介しよう (教室) ③	好きなメニューは何ですか？ (料理・国名) ④	私の得意なこと (スポーツ、音楽など) ④	オリビックの開国を知ろう (国、都市の名前) ④	お気に入りのものは何ですか？ (食べ物、動物、色、教科、スポーツ) ⑤		
短期学習 (モジュール) 15分×35回	アルファベットとかなよし (小文字) (順番に読む⇒形を認識する) 自分の名前の綴りを書いたり、伝えたりする。										
5年	自己紹介をしよう (既習表現) ②	アルファベットには名前と音が ある。 ②	給食を楽しんで もらおう (NTT L1) ④	楽しいものは、何ですか？ (NTT L1) ④	月曜日は何をしていますか？ (日曜、スポーツ、音楽) ④	世界を旅しよう (国名、料理、形) ④	アルファベットには名前と音がある。 ④	できること (人柄) ③	東京の観光案内 をしよう (NTT L7) ⑤	あこがれの人 (人物紹介) ③	
短期学習 (モジュール) 15分×105回	TPC (タブレット教材) 学習 (15回) 絵本を使って文字に親しもう (23回) 学期の振り返り (1回)										
6年	自己紹介をしよう (既習表現) ③	日本へようこそ (日本の文化の紹介) ⑥	オリビック (競技名) ④	夏休みの思い出 (過去形) ④	わたしたちの町・地域 (施設・動作) ③	日本や世界で活躍する日本人 (他者紹介) ③	将来何になりたい？ (職業) ④	絵本を使って文字に親しもう (12回) 学期の振り返り (1回)	絵本を使って文字に親しもう (12回) 学期の振り返り (1回)	中学校でやりたいことを話そう (部活動・学校行事) ⑤	
短期学習 (モジュール) 15分×105回	TPC (タブレット教材) 学習 (12回) 絵本を使って、文字を並べたり、単語を書いたりしよう 学期の振り返り (1回)										
	TPC (タブレット教材) 学習 (4回) 絵本を使って、文字を並べたり、単語を書いたりしよう (15回) 絵本を使って文字に親しもう (10回)、学期の振り返り (1回)										

※ 本表は、2017年度作成のものに一部修正を加えている

※ 表中の丸数字は授業時数を表す

【付録3】授業の流れ（授業の改善の例）

授業改善を図るためには、学校全体で授業の流れの統一を図り、それぞれの活動のねらいや進め方等について共通理解を図っておく必要がある。

そこで、授業の大きな流れが児童らに分かるように、教室のホワイトボードに掲示することを共通化した。（フローボード）学年によって、フローの中でも使うものや順番は変化するが、おおむね基本的な流れは一緒である。（①→②→⑤→④→⑥→⑦→⑨→⑩ など）流れを統一することで、英語の授業の形が作られる。進級しても、英語の授業の形が変わらないので、内容が少し高度になっても、とりあえず今どこを進んでいるのかは分かるので、児童は安心して授業に参加することができる。

① Greeting	① Greetings	① Greetings
② Daily Questions	② Daily Questions	② Daily Questions (Small Talk)
③ Name Tags	③ Alphabet Time	③ Sounds and Letters
④ Warm Up	④ Today's Lesson	④ Today's Lesson
⑤ ♪ ABC Song	⑤ ♪ Songs	⑤ ♪ Songs(Chants)
⑥ Today's Lesson	⑥ Activity	⑥ Activity
⑦ ♪ Songs	⑦ Story Time	⑦ Let's Write
⑧ Activity	⑧ Review Card	⑧ Review Card
⑨ Story Time	⑨ Goodbye Greetings	⑨ Goodbye Greetings
⑩ Goodbye Greeting		

※Story Time は、毎回は実施しないため、レスンプランを確認のこと。

<進行の仕方>

ハートマークを授業の進行に合わせて動かす。

動かす際に、必ずその項目（「Songs!」など）をTが言いながら動かす。

そしてSがリピートする。

<フロー表示の種類と内容>

① Greetings

はじまりの挨拶

② Daily Questions

季節、月、月日、曜日、天気、時間、気温。ネームタグ受け渡し。

各学年、習ったものから毎回継続して質問する。

日直：質問、クラス：答え。HRTが” Switch! one two.” クラス：質問、日直：答え。

繰り返すことで、6年生では自信をもって、すべての質問ができ、答えられる状態ようになる。

高学年は、年度初めは確認のため全部行い、その後はくじ引き方式等で、全質問から三つ選択。

③ Warm Up

低学年向け。授業に入りやすくする為に、音楽にのりながら、発話しながら身体を動かす。

④ Songs

歌。単元にそったものや季節にあったものなど。

Chants・Jingle リズムだけのもの。パナナチャンツ、アルファベットジングルなど。

⑤ ♪ ABC song

1年生、2年生向け。アルファベットに親しみ、元気のよい発話につなげる。帯活動。

Alphabet time

3年生（大文字）、4年生（小文字）の確認、フラッシュゲーム、パズル。帯活動。

Sounds and Letters

4年生3学期～5年生、6年生。帯活動。

- ・アルファベットには名前と音があることを説明し、まずは26音をゆっくり覚える。
- ・3文字クイズなどを取り入れ、3文字の単語なら読めるように、読んでみたいと思えるようにする。
- ・3文字単語で構成される簡単な文章を読めるようにする。

⑥ Today's Lesson

本単元や本日のねらいを明示する。日本語で板書し、視覚的に認知させる。

ターゲットとなる単語や目標文章の導入と練習、復習と練習を行う。

⑦ Activity

単元の内容を確認するアクティビティ。

まず、指導者がデモンストレーションを見せ、Sにアクティビティで使う英語とその内容を理解させる。状況によって中間評価を行う。活動を途中でとめ、手本となるような活動をしている児童をクラスの前で発表させる。その良い点や注意点を周知して、残りの活動を行う。

⑧ Story Time

本の読み聞かせ。単元や季節にあった分かりやすい内容を選ぶ。

⑨ Let's Write

高学年向け。ワークシート等で、なぞり書きや写し書きなどを行う。自分が書きたい文言を書く場合も、必ず参考となる単語等を用意し、児童が選んで書けるよう配慮する。

⑩ Review Card

3.4.5.6年生向け。振り返りカード。

その日の授業について、「楽しかった」などではなく、どんなことを学び、理解し、どう思ったかなどコメントを書けるように助言する。学年でファイルを購入し、6年生までワークシートなどとともにファイリングをしていく。

⑪ Goodbye Greeting

終わりの挨拶

【付録4】 HRT、AD、NEAの役割と連携方法

	HRT	AD	NEA
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針及び解説の理解と確認 ・ Sの興味関心やクラスの人間関係の把握、 ・ 他教科との関連の有無を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針及び解説の理解と確認 ・ 年間計画、月間計画を作成 ・ 他教科との関連の有無を確認 ・ 教材や教具の知識を提供 ・ 活動への指導と助言 ・ 新転入者への研修 ・ HRTとNEAの仲介 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の理解と確認 ・ 教材や教具の知識を提供
	3人で、授業の進捗状況を確認、Sの様子を把握、どのような活動をするか検討し決定、教材を分担して作成		
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のメイン進行役 ・ クラスコントロール ・ デモンストレーションを行う ・ 良き学習者のモデルとなる ・ Sを褒める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スムーズな進行になるようにHRTとNEAをサポート ・ デモンストレーションを行う ・ 海外文化経験を伝える ・ NEA不在の場合は発音指導 ・ SとNEAの仲介 ・ SとHRTを褒める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語話者として発音指導 ・ AD不在の場合は、HRTのサポート ・ デモンストレーションを行う ・ 海外文化経験を伝える ・ 読み聞かせを行う ・ Sを褒める
	HRTがT1であるが、得意な範囲や授業進行、Sへの対応などで3人が臨機応変に入れ替わる。		
後作業	ふりかえりやSの様子で、活動内容を確認する。意見交換。授業の内容を記録する。授業時数確認。		

ADやNEAなどの外部講師が入ることで、一方向の講義型にならず、児童が発話する機会が増える。継続的な活動を行える。文化的な交流ができる。HRT、AD、NEAの実際のコミュニケーションが、Sのコミュニケーション能力の素地を養うことの一助になる。

ⁱ 例えば、「地域の特色等を生かした特別の教育課程を編成する学校の取組」があげられる。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gaikokugo/jouhou/tokubetsu.htm

ⁱⁱ 英語教育強化地域拠点事業による。https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/doc/tb_h26fu_10_mext427a.pdf

ⁱⁱⁱ 文部科学省では、平成30年度から31年度までの2年間における移行措置及び先行実施を円滑に進めるべく、児童用冊子、教師用指導書を作成・配布した。https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

^{iv} 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編では、「挨拶や感謝、簡単な指示が機械的なやり取りに終わらないように、挨拶や感謝をしたり、簡単な指示を出したりそれに応じたりする必然性のある場面設定を行うことが必要」などと「必然性」について7か所の記載がある。

^v 効果量については、SPSSを用いて分析した。ここで、ファイ係数(Phi: Φ)および、クラメールのVが算出されるが、水本、竹内(2008)「研究論文における効果量の報告のために」、『英語教育研究』31, pp. 57-66に従い、Cramer's Vを用い、G*Powerにて検定力を算出した。

